

ご自由に
お持ち帰り下さい
Take Free

特集

帝京大学医学部

附属病院

薬のおはなし

知っておきたい、
みんなに大事な
薬のこと。





◎発行年月
2016年5月
◎発行
帝京大学医学部附属
◎編集・制作
アルケファクトリー

T-me

T-me「チーム」は、帝京大学医学部附属病院と地域の皆さまをつなぐ院内報です。
T:Teikyo=帝京大学医学部附属病院の頭文字
me:Medical=地域の皆さまのための医療
また、「チーム」には医師、看護師、薬剤師、栄養士、その他病院全てのスタッフが連携して行う
チーム医療の意味も込められています。

		特集 帝京大学医学部附属病院 薬のおはなし	03	02 「薬の歴史」
連載 チーム医療	作業療法士／臨床心理士 安全管理部 薬剤師	薬剤師 部長 渡邊真知子さん 薬剤師 桑原達朗さん 薬剤師 石田ゆりさん 薬剤師 小林奈那子さん	04 06 10 12	04 06 10 12
Topics & News		14		
帝京大学医学部附属病院からのお知らせ		16		

HISTORY

薬の歴史

人の暮らしには、病気や怪我がつきものです。昔から地球上の人々は、どんな植物や鉱物が病気や怪我に効くのかを試行錯誤し、発見し、暮らしの知恵として子孫に伝えてきました。その延長線上に現代の薬学はあるのです。

「藥」という漢字には草かんむりがあります。ここからもわかる通り、昔からさまざまなお藥が薬として使われてきました。植物を乾燥させ、細かく刻んだものを煎じて飲んだりする方法から始まって、数種類の藥を混ぜるなど藥効成分をいかに効率よく患部に届けるかという工夫をして発展してきました。

洋の東西を問わず、かつては病気を「惡魔の仕業」「たたり」など捉え、まじないや神頼みで直そうとする文化も根強かつたのですが、時代が進むにつれ、人々の交流に伴って徐々に藥の存在が認知されてきました。

日本では、5世紀ごろから半島（新羅・百濟）や大陸（隋・唐）文化が移入し、それとともに医学の知識も入ってきました。聖徳太子が大阪に四天王寺を建立した時、施薬院（せやくいん）をつくったといわれています。施薬院とは、聖徳太子が仏教の慈悲の思想に基づいて怪我や病気で苦しむ人を救うためにさまざまな薬草を育て、薬を製造・調合し、処方するために作ったと言われる施設です。社会福祉の始まりとして紹介されることもあります。

帝京大学医学部 附属病院

薬のおはなし

治療や健康維持に

欠かせないのが「薬」です。

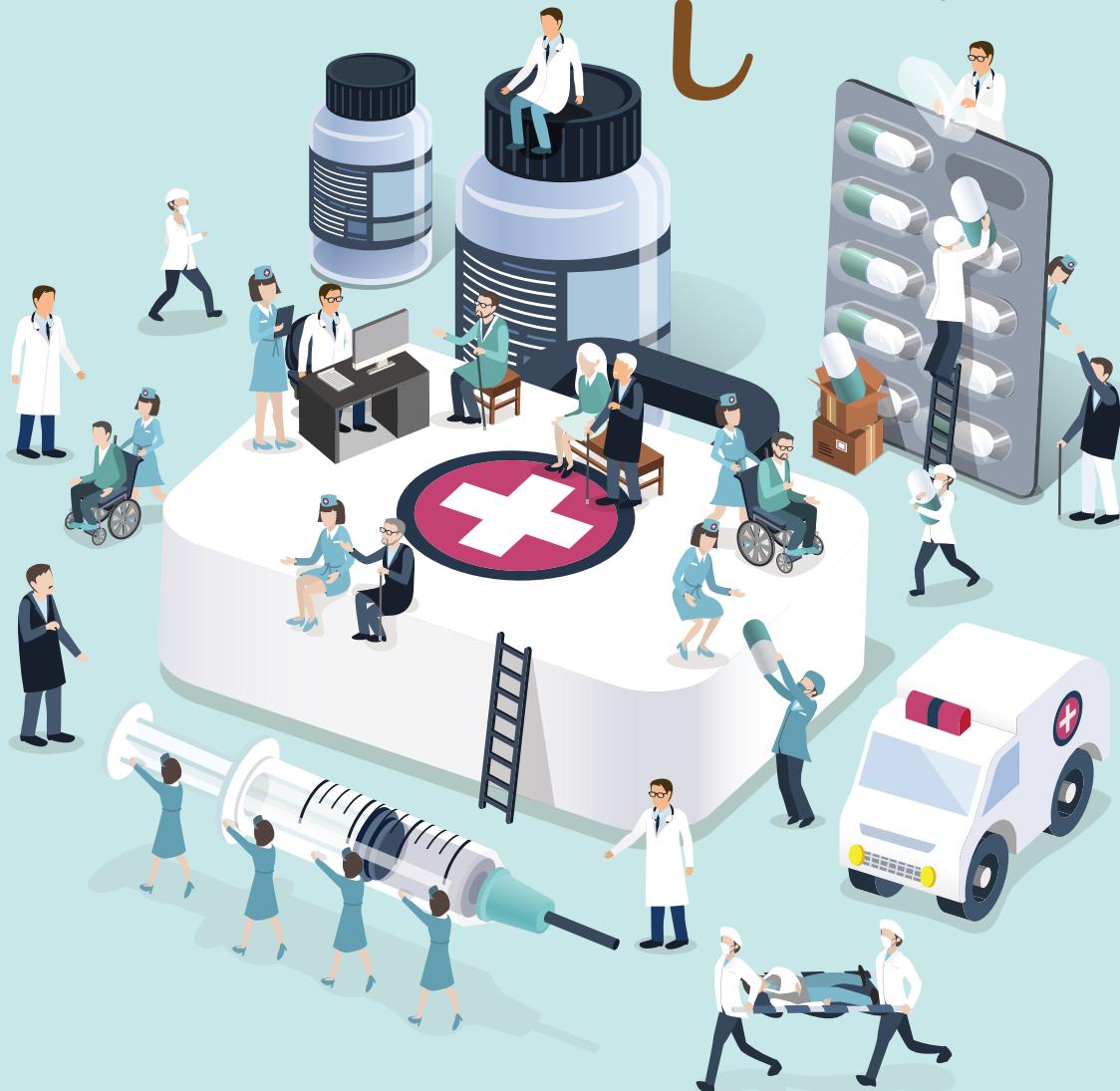
常に生活の中にある

身近な存在の薬のことを

もっと知つていただくために、

院内の薬のすべてを管理する

薬剤部についてご紹介します。



薬のすべてに関わる プロフェッショナルとして、 薬剤部は医療を支えます

帝京大学医学部附属病院は、最先端で高度な医療を提供する特定機能病院です。院内ではさまざまな病気や怪我に対応するため、二千品目近い医薬品が採用されています。

「それらの薬が患者さんに適正に使用されるようしっかりと管理し、薬が使われるすべての場面で全責任を持つのが薬剤師の役割です。個々の患者さんに最も適したお薬を安全に使っていただくために、薬の専門家としての立場からアプローチするのが薬剤師です。」

薬剤部の業務は調剤、医薬品管理、病棟業務の大きく3つに分かれます。「調剤室では、主に医師のオーダーする処方に基づいて入院患者さんの薬剤を調剤する入院調剤と、院内処方をされた外来患者さんの薬剤を調剤する外来調剤を行っています。」

医薬品管理室では、電子カルテによる注射剤の処方に基づいた調剤、監査(投与経路、投与量、投与速度、配合変化等の確認)を行い、注射薬自動払い出し装置を用いて患者個人別の注射薬の取り揃えを行っています。また、病棟および外来の定数配置薬の管理・補充、中央手術部、腎センター、中央放射線部、内視鏡センターなどの中央診療部・診療協力部

への薬品供給と管理を行っています。

薬務室では薬剤の数量管理・在庫管理を行っており、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品(血液製剤)に関する薬事法などの関係法規に基づき適切な保管、管理を行っています。

病棟では患者さんに対する服薬指導や、医師が正しく処方しているかどうか、患者さんに副作用が出ていないかどうかをチェックしたりする薬学的管理などを行っています。また、退院時に退院時薬剤情報管理指導(退院後に必要なことを説明し、お薬手帳・シールを提供)を行っています。」

他の職種とも常に良好なコミュニケーションを取っています

「患者さんの情報を共有して、患者さん一人ひとり

渡邊 真知子さん
Watanabe Machiko

薬剤部 部長

東京大学薬学部、東京大学大学院修士課程、東京大学大学院博士課程卒業後、福島県立医学部附属病院、筑波大学病院勤務を経て、平成13年より帝京大学薬学部講師、平成15年より同助教授、平成18年より同教授、平成21年より帝京大学医学部附属病院薬剤部長、検査事務局長を兼務。



りに最善の薬物治療を提供するために、医療チーム内では良好な関係を築くこと、また他のスタッフとは異なる薬学的な視点を持つて患者さんに関わることが必要だと思います。

薬剤部もひとつのチームとして捉えれば、高いチーム力が育つておらず、日々の業務において、お互いを思いやつて助け合う雰囲気に溢れて

いるのが私たちの良いところです。それぞれの薬剤師が、情熱と使命感を持って働いてくれているので、部長である私も皆の思いに支えられないと実感する毎日です」

最先端で高度な医療を提供する当院では、薬剤師に求められる知識やスキルも自ずと高度な専門性を帯びてきます。

「その要請に応えられるよう、薬剤部としてはしっかりとした教育体制を構築することで、次世代を担う人材の育成に努めたいと思います。また、これまで築いてきた医療スタッフや患者さん一人ひとりとの信頼関係を基盤として、薬剤師が院内全域で活躍する未来を目指しています」

もっと活躍の場を広げ、

患者さんから顔の見える薬剤師に

超高齢化社会に入り、医療制度が大きく変化する中、薬剤師の業務も変革期を迎えています。これまでには、医師が処方した薬を調剤する業務が中心でしたが、数年前より病棟に薬剤師を配置することを進めてきました。結果、やっとこの3月ですべての病棟で薬剤師が働く体制ができました。これまで以上に病棟で入院患者さんのために活躍することが期待されています。病院内の部屋に閉じこもって調剤をしているイメージから、患者さんや医療スタッフからもっと顔が見える存在になりたいと思っています」

薬剤師は薬のプロフェッショナルとして、患者さんや医療スタッフの信頼を得られるよう、日々努力をしています。お薬に関することは、なんでもご相談下さい。



糖尿病患者さんの生活を トータルに診られる 薬剤師を目指しています

浅木知子さんは、総合内科病棟の薬剤師として、糖尿病や感染症、自己免疫疾患で入院されている方の薬を管理しています。

「入院日にお会いし、今使っている薬を市販薬含めて全て確認させていただきます。内科の他、眼科や整形外科などの疾患があり、当院以外で治療をされていることも多いので、全体的に確認します。一日3回食後に飲むよう処方されていても、朝ご飯を食べる習慣がないので2回しか飲めていないという方がいらっしゃいます。そのような場合は医師に確認した上で、3回分の薬を2回に分けるなど、入院中も普段の生活に近い状態で薬を飲めるようサポートします。入院して治療が進むにつれて薬の内容は変わってきますので、どういう薬が新しく始まったのか、どんな効果があるのかということをご説明しています。

入院中は飲み薬だけではなく、点滴の薬や吸入薬、また検査の際に使用する薬など、様々な薬が使われます。使い方に間違いがないか、飲み合わせに問題がないかといふことは常に確認をし、何か問題があつても早めに対応できるよう気をつけています。

退院の際には、ご自宅で使う薬を用意します。ご本人の理解力やご家族のサポートを把握し、数種類ある錠剤を一回分ずつパックした方がいいのか、それともPTPシート（10錠）のままでお渡しした方がいいのか

など、現実的に飲みやすい方法を探ります。入院中の薬についてはお薬手帳に記載してお渡しします」

患者さんの中には、入院の際に大きな紙袋いっぱいに何年も前の薬を持ってこられ「何をいつどれだけ飲めばいいのか分からなくなってしまった」という方もいるそう。

「その方には、一包化する形式をご提案して、退院の時にお渡ししました。その方に次にお会いした時、「パックにしたことで飲み忘れがなくなり、とてもよかったです」と言ってくださいました。薬剤師として当たり前のことをしただけなのですが、感謝していただけてこちらもうれしかったです」

医師や看護師、栄養士とカンファレンスで情報共有しています

薬や手術だけでなく、食事や運動、血糖値を測る機械についてなど



浅木 知子さん
Asagi Tomoko
薬剤師

2010年 東京薬科大学大学院 卒業
2010年 帝京大学医学部附属病院薬剤部 入職



様々な職種が関わるの

が糖尿病という病気。

「血糖値の薬の一部は食前に飲んでください」と指示をしますが、どういうものを食べればいいのか、また食べてはいけないものなど、

患者さんから食事についての質問をいただくことがあります。そんな時は栄養士にお話を繋げ、また逆に栄養士からも薬について質問をもらつことがありますので、協力しながら治療に当たっています。治療中、患者さんには分からぬことや疑問点があると思いますので、気軽にお話して下さるような雰囲気作りが大切だと思っています。

糖尿病の薬は、食前に内服しないといけないもの、食後に内服するものがあり、薬の飲み方の違いを覚える必要があります。また、低血糖という症状が出た場合の対策についても必ず知つておいていただきません」

インスリンの自己注射の方法を

丁寧に説明し、一緒に練習します

「注射は1日1回のケースや、多い方だと3～4回のケースがあり、決まった時間に打つもの、食前に注射をするものの2タイプに大きく分か



問点があればお伝え下さい。

「もし『なぜ、この薬を飲んでいるんだらう？』という薬があればぜひ薬剤師に質問をしてみて下さい。一緒に考えて、もし必要ない薬でしたらやめることもできますし、大事な薬であればそのようにお話させていただきます。その他、なかなか時間が合わなくて飲めない、粒が大きくて飲みづらい、お薬手帳の管理など、薬に関することは何でも相談に乗ります」

糖尿病治療をサポートする糖尿病療養指導士として、食事や運動を含めて患者さんの生活を総合的に見られる薬剤師になりたいと語ってくれました。

れます。最初はみなさん『自分で注射するなんて怖い』と言いましたが、注

射針は採血の針に比べるととても細く、痛みは比較的軽いです。注射器の操作方法を丁寧に説明して、お腹を模した台に打つ練習を経て実際に刺してもらうと『思ったより痛くなかった』と言って下さる方が多いです。

注射をされる患者さんには、注射器と使用後の針の管理をしていただかないといけません。どういう生活をしているのか、また高齢で認知機能が低下している方は、自身で注射を管理することが難しくなるので、ご家族のサポートがどれだけ得られるのかどうことも確認するとともに、ご家族への指導も行います」

救命救急センターの薬剤師として あらゆる重症患者さんに 迅速に対応しています

桑原達朗さんは、一〇一（救命救急センター）を担当する薬剤師として、医薬品の管理・供給および薬剤管理指導を行っています。

「朝はカンファレンスに参加し、前日の夜間帯に来られた患者さんや、病棟にいる患者さんの前日の様子をうかがいます。薬剤師は患者さんの状態と合わせて、どの薬をどれだけどのように使用しているのかを確認します。

カンファレンスには、ソーシャルワーカーも出席します。救命救急センターの場合、当院での治療の後に転院して治療を続ける患者さんが多いので、転院先の薬の状況などをソーシャルワーカーに確認し、情報を共有しています。

新たに運ばれてきた患者さんが薬を持っていたらその確認をしますが、救命救急センターに運ばれてくるところとは薬を持ってくるような余裕がない場合がほとんどです。患者さんのお薬手帳を確認して、どういう薬をそもそも飲んでいるのか、その薬が運ばれてきた原因の可能性があれば、それを医師にフィードバックします。お薬手帳を見れば、その方がどの病院に通っていて、どんな薬を服用しているかが分かりますので、お薬手帳は医療にとって重要なツールだと思います。また救命センターでは、医師の指示表がベッドサイドに置いてあるので、薬の

投与量や投与速度を毎日確認しています

常に気をつけているのは確実に伝えること

「医師にフィードバックする際、何か変更点があればカルテに記します。ですが、それだけだと忙しい医師には確実に伝わらないことがあるので、大事なことは直接口頭で伝え、その上でカルテに書くように二重に伝達しています。救命救急センターに来て間もない頃はカルテに書くだけで済ませてしまい、指示が伝わっていないということがありました。事故につながりかねない危険性がありますので、それ以来『確実に伝える』ということを心に留めるようになります」

救命救急センターに来る患者さんの状況は幅広く、数多くの種類の薬剤を使用します。

「薬についての医師からの質問は多岐に渡り、それに最大限対応できる

桑原 達朗さん
Kuwabara Tatsurou
薬剤師

2005年 東邦大学薬学部 入学
2009年 東邦大学薬学部大学院 入学
2011年 帝京大学医学部附属病院 入職



よう日々気をつけています。

他の病棟では、医師が必要な薬を電子カルテでオーダーし、その処方箋が地下の薬剤部に送られて、薬剤師が薬を用意した後、看護師に薬剤部まで取りに来てもうシスティムになっています。救命救急センターの場合は、その猶予がなかったり患者さんの状態によって急に指示が変更されることが多いので、病棟でよく使う薬は病棟内に用意してあります。毎日の定数薬補充、毎月の使用期限確認、病棟定数薬の品目の検討・管理などを行っています」

救命救急センターのやりがいを 他の薬剤師にも伝えていきたい

あらゆる重症患者さんに対応できる設備を24時間体制で稼働する救命救急センターは、過酷な現場と思われがちです。

「私も最初はそのようなイメージを持っていたので、辞令を受けた時は『やつていけるのだろうか』と不安に思いましたし、他の薬剤師からも『大変ですね』と言わされました。確かに大変な現場ではありますが、医師や看護師と協力し、足りない部分はフォローし合っていますので、3～4年目くらいからはしっかりと職務を全うしていくようになりました。

後輩の薬剤師たちにももっと救命救急センターの仕事に興味を持つてほしいと思っており、今後は仕事の内容

ややりがいなどを伝えていき、救命救急センターを目指す薬剤師を増やしていきたいと思っています。

救命救急センターに薬剤師がいることは、患者さんにはあまり知られていないようです。もし何か気になったことがあれば、気軽に声をかけてくれればと思います」

これまで救命救急センターには、一番重症な患者さんが運ばれる三次救急にしか薬剤師がいませんでしたが、2016年2月から一次救急と二次救急を扱うERにも薬剤師が配置されるようになりました。これからより手厚い医療を行うため、薬剤師は活躍していきます。



患者さんの痛みや苦しみを 最少限に押さえることも、 薬剤師の大切な役割です

整整形外科病棟で薬剤師として働く石田ゆりさん。整形外科では手術が多く、手術に関する薬を患者さんに説明したり、抗がん剤や鎮痛剤として医療用麻薬を使う患者さんにはそれらの薬に関するご案内をしています。

「抗がん剤については薬を投与するスケジュールや、どういった副作用が起こり得るかなどを、他の薬に比べてより詳しくお話しします。また、痛みを強く感じている患者さんには、医療用麻薬が処方されることがあります」

お薬への抵抗感をなくしていただくように

慎重にご説明をします

医療用麻薬は痛み止めの中でも最も強いもので、より効果的に痛みを抑えることができます。

「麻薬」というその言葉自体に抵抗感がある方、また依存性があるのではと気にされる方もいらっしゃるので、痛みがある中で使う分には問題ないということをきちんとお話しします。

また副作用については、パンフレットなどを使いながらご説明しま

す。吐き気、便秘、眠

気という3大副作用がありますが、薬を使つて早めに対応することで予防できる副作用もあります。長期間にわたる副作用もあるので、うまく薬を使って対処しましょうねとお話ししています」

「医師から『痛みはあるべく薬で抑えていきたいと思いますので、薬剤師さんよろしくお願ひします』と言われたことがあります、薬剤師としてがんばろうと思えました。看護師からは薬の管理方法などを聞かれるのでお答えしたり、または逆にこちらが何か気になることがあれば看護師に聞くようにしています。

また日頃は『緩和ケアチーム』と接することも多いです。緩和ケアチームには医師、看護師をはじめ薬剤師や臨床心理士、ソーシャルワーカーなどが所属しており、がん患者さんに対する身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアを行っています。特に痛みがあるがん患者さんには積極的に緩和ケアチームの介入がありますので、担当の薬剤師と協力して患者さんに対応しています。



石田 ゆりさん
Ishida Yuri
薬剤師

2012年3月 星薬科大学 卒業
2012年4月 帝京大学医学部附属病院 入職

もありますが、なるべく率先して自分が気づいて、解決していくたいと思っています。

がんという病気に対し、患者さんやご家族がどれくらい受け入れられているのかということを、常に手探りなのですが、把握してからお話しするようにしています。どうしても副作用で体調が悪い時にもお話ししないといけないことがあります、なるべく時間をかけず、負担をかけないように気をつけています。あらかじめ医師から説明がありますので、動搖される方はあまりいらっしゃらないですが、お話を伺うときはいつも緊張しています。

薬を使うことに対する抵抗を感じ、気が進まないという方もいらっしゃると思いますが、適切に使っていけば効果が得られ、気になる症状が抑えられますので、是非薬を使った治療を受けてほしいと思っています。不安に感じることや疑問に思うことがありますたら、ぜひ薬剤師に相談してほしいです。

2015年にドーピングに関する薬剤師の資格を取った石田さん。今後はその資格を活用していくのが目標です。

「アスリートが飲んでいい薬とドーピング検査で引っかかる薬があるのですが、その情報を把握しているという資格です。『うつかりドーピング』を避けていたいするために、情報提供していきたいと思っています。活躍の機会はまだ多くないのですが、2020年には東京オリンピックも開催されますので、それを見据えて更に勉強したいと思います」

恵まれた環境で仕事をしているので、それに甘んじないように努めていきたいと語ってくれた石田さん。今後も薬剤師として患者さんの苦痛を取り除き、患者さんのお役に立つことを目指しています。

「患者さんは薬に関する不安があるでしょうし、またこうしたいといふ希望もあると思います。看護師から患者さんの希望を伝えられること



前向きな治療に向けて、 お子さんの服薬支援に 力を入れています

小林奈那子さんは、小児科病棟で薬剤師として働いています。小児科では整形外科や形成外科など、15歳以下の眼科以外の病気や怪我のすべてを扱っています。

「小児科に入院している患者さんの薬の用量、用法や点滴の配合変化の確認と持参薬の確認、服薬指導を主にしています。成人を主に診てている医師は、たまにまだ錠剤が飲めない患者さんにも錠剤を処方することがありますので、あらかじめ粉や座薬など希望の形状を医師に伝えています。相互作用がある薬も多いので、血中濃度の測定の依頼をしたり、普段あまり使用しない抗がん剤などが出了した場合は副作用の出る時期や種類について看護師に伝えます。患者さんの状態は看護師が夜間帯もこまめにチェックしているので、確認したら教えてもらうようにしています」

最も気をつけていることは

薬の投与量や投与速度の確認

「小児では年齢と体重によって薬の投与量が異なり、体も小さいので大人に比べ影響が出やすいです。薬の体重当たり、体表面積当たりの用量を事前に伝えることが出来れば医師に伝えますが、誤って投与されると

大変危険ですので、
医師や薬剤師はじめ、看護師もチェック
を行い確認を重ねています」

「生後数カ月など、今まで薬をのんだことがない子への薬の飲ませ方、吐きこぼしてしまった時や飲み忘れた時の対応などを親御さんに退院時に服薬指導します。シロップや粉薬が多いので、これとこれなら混ぜても大丈夫であるなど、効率の良い飲み方をお伝えします。また錠剤なら飲めるけれど粉薬は苦手な子やその逆もありますので、剤形変更を医師に依頼したりします。退院後も数年単位など長期に渡り服用することが多いので、服用するのに時間を要する粉薬よりは錠剤をおすすめしています。錠剤を四分の一や二分の一に切って飲む練習をさせて、飲めそうであれば錠剤に変更します」

服薬指導は基本的に親御さんになりますが、4歳以上になると直接指導することにより効果を得られるといわれており、患者であるお子さんに

小林 奈那子さん
Kobayashi Nanako
薬剤師

2012年3月 星葉科技大学 卒業
2012年4月 帝京大学医学部附属病院薬剤部 入職



も積極的に説明をしています。

「がんばって薬を飲めたら、医師、看護師、保育士、私で全力でほめるようになります。吐き戻してしまったり失敗する」とも多いですが、全く飲めないよりは少しでも服薬できたということが重要です。親御さんは毎回全部飲ませないと叱りしても神経質になってしまいます。失敗したとしても次に目を向けて、がんばった成功しましたとお伝えしていきます」

疑問点はすぐにインターネットで調べられる時代。副作用を検索して、不安にかられる親御さんもいらっしゃいます。

「薬の説明の際、副作用についてもお話しします。あるお母さんは副作用についてよくインターネットで調べられていたのですが、誤解されてくることも多いようでした。『もしその副作用が起じたとしても必ずしもその副作用症状がずっと継続するわけではなく、また副作用症状を軽減させる薬もある』ということをきちんと説明したことによって、『聞いてみてよかったです、安心しました』と笑顔になった時は嬉しかったです。イメージだけで副作用を大げさにとらえてる」とも多いので、改めて服薬指導の重要さが身にしみました」

治療に前向きな親御さんの気持ちが お子さんにも伝わります

「お母さんが治療や薬に対して後ろ向きだと、お子さんにも伝わってしまい、治療を嫌がってしまいります。お母さんが『治るからね、大丈夫だよ』と安心感を与えることによって、お子さんも薬を飲もう、治療に取

り組むつとづつ気持ちになってしまいます。まずは親御さんに信頼していただいて、やる気になっていただく」ことが大切だと思いました」

今後の目標は小児薬物療法認定薬剤師の資格を取り、もっと薬や治療についての知識を身につけることです。

「患者さんやそのご家族に『ありがとうございます』といふ言葉をかけていただくことが一番嬉しく、やりがいを感じます。患者さんやスタッフからもつと信頼されるような薬剤師になりたいと思います」

今後もスタッフと協力し、情報共有をして患者さん個々に合った最善の治療を行いたいと語ってくれました。



薬のQ&A

「どうなのかな?」と疑問に思つても、なかなか聞けない薬のこと。
帝京大学医学部附属病院の薬剤師がお答えします。



Q お薬手帳は必要でしょか。
利点を教えてください。

A お薬手帳は、お薬の処方内容を記録(いつ、どこで、どんな)しておく手帳のことです。薬の処方の記録があることで、**安全に薬を使用**することができます。たとえば、同じ薬による副作用の再発や、薬の重複、よくない飲み合わせなどを未然に防止できます。お薬手帳があれば、いくつかの医療機関を受診する時、転居した時、旅先で病気になった時などに服用している薬を正確に伝えるのに役立ちます。

Q 薬局で薬を買うときの選び方や
注意点を教えてください。

A パッケージに表示してある効能などを参考にして、ご自身の症状によくあつた薬を選びます。ただし、医師から処方された薬を服用している場合、妊娠中、授乳中、薬や食物のアレルギーがあるなどの場合は、使⽤してはいけない薬があるので、選ぶときには薬剤師に相談してください。症状によっては医療機関を受診したほうがよい場合もあります。

Q 薬局で売っている市販薬なのに、
なぜ薬剤師が販売しないと
いけない薬があるのですか？

A 市販薬(医師による処方せんを必要としない一般用医薬品)は、リスクの程度に応じて要指導医薬品・第1類医薬品・第2類医薬品・第3類医薬品の4つに分類されます。なかでも要指導医薬品・第1類医薬品は、安全性上とくに注意が必要な成分を含むため、薬剤師からの情報提供が義務づけられています。

Q ジェネリック医薬品とは何ですか？
安全性や効き目などに問題はないのでしょうか？

A 新薬(先発医薬品)の特許が切れた後に販売される、先発医薬品と原則的に同じ効能・効果、用法・用量の医薬品のことです。開発の経費が抑えられるので先発医薬品より安価です。厚生労働省は医療費抑制策のひとつとしてその使用を推進しています。安全性や効き目などに問題はないと言えます。



Q サプリメントやトクホの食品を取っています。薬剤師にそのことを伝えなくていいでしょうか？

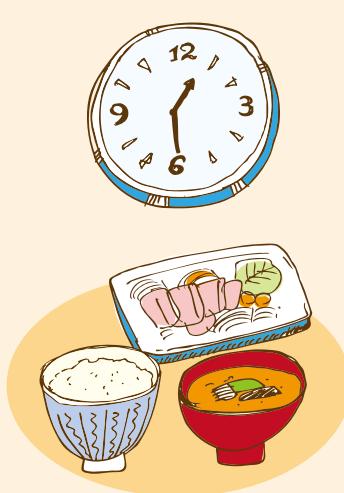
A サプリメントやトクホは薬ではありませんが、種類によっては、医師から処方されている薬と一緒に取ると飲み合せが悪く、薬の吸収が遅れて効果が弱くなったりり、また、逆に薬の作用が強くなったりする場合があります。薬剤師には、いつも取っているサプリメントやトクホの名前を伝えて、体に不都合なことが起きないかどうかを確認してもらつてください。

Q 子どもが薬を飲んでくれません。上手な飲ませ方はありますか？

A 乳児（生後1年未満）や幼児（生後1～6年）は薬の苦味やにおいなどが原因で薬を嫌がることがあります。飲ませ方の工夫として、例えば、薬をほんの少量の水や白湯で練り、それを指先で上あごやほほの内側につけたあと、ぬるま湯を飲ませることをします。ミルクに混ぜることは、「ミルク嫌い」になつたりすることもありますので、お勧めできません。幼児には、砂糖や蜂蜜を少し加えて飲みやすくすることもできます。ただ、ジュースなどに溶かしたりすると、薬によつては効果が落ちたりする場合もあります。

Q 食前、食後、食間とはいつ飲めばいいですか？

A 食前とは、食事の約30分前のこと、食後というのは、食事が済んで約30分までのことです。食間とは、食事と食事の間のことです。食事が済んで2時間くらい経つてからのことをいいます。食事中に服用するという意味ではありません。

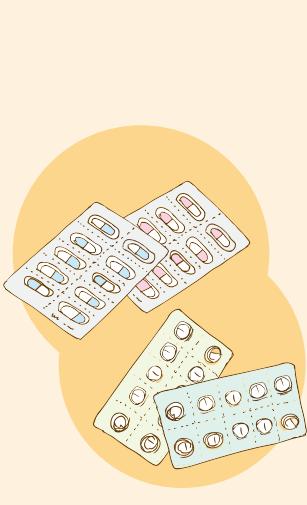


Q 頓服薬とは何ですか？

A 頓服は「とんぶく」と読みます。朝、昼、夜など決まった時間に使用するものではなく、症状が現れた時にそれを抑えるために使用します。例えば、頓服薬には「痛いとき」に使用する鎮痛剤、「熱があるとき」の解熱剤、「眠れないとき」の睡眠剤などがあります。

Q 余った薬はどうすればいいですか？

A 余った薬は原則として廃棄となります。医師が処方した薬は、特別な指示がない限り、処方を受けた日から指示どおり使用して使い切る日までが使用の期限と考えることができます。例えば、3日分の薬が処方されたとしたら、3日後が使用期限ということになります。薬を廃棄するには、薬が出された病院や薬局などに相談する方が良いと思います。薬によつては、「残った場合には返却すること」などの指示がある場合もあります。



気持ちを尊重し、治療の一歩に

メンタルヘルス科 作業療法士 吉田久恵さん

メンタルヘルス科では、統合失調症、気分障害（うつ病、躁うつ病など）、不安障害（パニック障害など）、認知症など精神科領域の疾患に対応しています。吉田久恵さんは作業療法士です。

「統合失調症を中心とした青年期の方を対象としたデイケアで、料理・スポーツ・作業などの活動を通して元気と自信を回復し、社会復帰していただくためのお手伝いをしています」

デイケアでは、医師・看護師・作業療法士・精神保健福祉士・臨床心理士など、多職種チームによるきめ細やかな対応を行っています。プログラムの前後でスタッフ全員が集まり、情報の共有を行っています。「デイケアは週4日行われ、またカンファレンスを定期的に実施して治療方針を検討し目標の確認をしています」

メンタルヘルス科では、10年単位という長期間の通院になることも珍しくありません。

「若くして『病気になられて将来の目標を見失っている方も多いですが、『自分がどうしたいか』という気持ちを尊重し、希望に沿った支援ができるように心がけています。今後も丁寧に寄り添って、支援していきたいと思います」



吉田久恵さん

情報を共有する難しさとやりがい

メンタルヘルス科 臨床心理士 海野有希さん

海野有希さんは、メンタルヘルス科の臨床心理士です。

「臨床心理士として個人精神療法、いわゆるカウンセリングと、心理検査をしています。またデイケアのスタッフとしても患者さんを担当しています」

心理検査は患者さんの内面について深く豊かな情報が得られるもので、医師の診断の補助にも使われます。そうした情報を他のスタッフにどう伝えていくかは難しいのですが、やりがいを感じる部分でもあります」

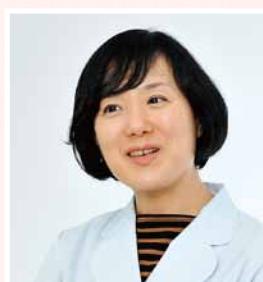
薬や道具を使うことのない臨床心理士という仕事。成果が数字に現れることはありませんが、患者さんの一言が励みになることもあります。「精神療法を続けて、変わることができた」と言われると報われる思いです。メンタルヘルス科は受診までのハードルが高いかも知れませんが、スタッフ一同、お役に立てるこことを願っています」

MY HOBBY

吉田「洋裁が大好きです。最初のボーナスで買ったのがミシンでした。ミシンに向かい集中するのが気分転換になります」



海野「学生時代から20年以上、アマチュアオーケストラでホルンを演奏しています。趣味に向かうことが、逆に仕事にはプラスになると思います」



海野有希さん

薬剤師の眼から安全管理を徹底

安全管理部 薬剤師 Aさん

安全管理部とは、医療事故の発生を未然に防ぐことを目的とした部署。Aさんは医療を安全に提供するために、専従薬剤師として活動しています。

「病院では日々さまざまな出来事が起ります。途中で間違いに気づいて事なきを得たヒヤリハット報告や実際に起きてしまったインシデントアクシデント報告が職員から上がります。安全管理部ではそれについて週に一度、全員で集まって会議を行い、原因の分析と再発予防策を考えます。間違った人を責めるのではなく、システム的に改善できるものなのか、もしくは「ミユーチューション」で防げるものなのかというところを重視しています。その中で特に私は薬についての専門家である薬剤師として薬剤に関する事故はどういうことができるかを考え、改善につなげるという役割をしています」

忙しい現場では、ちょっとした行き違いから薬の取り違えなどが起こりかねません。

「人はいくら気をつけていてもミスをしてしまうものなので、それをいかにして防ぐか、見つけるかというところを考えます。例えば注射薬は生理食塩水で溶かして使用するケースが多いのですが、まれに注射用水で溶かさないといけない薬剤もあります」



す。医師がオーダーする際に、注射用水で溶かすように注意書きを入れようと提案して、間違いをシステム的に防ぐ仕組みを薬剤部と連携して作成したり、また名前が似ている薬を取り違えないように啓発する注意喚起札を作成したりしています」

事故が起きる原因是、「思い込み」と「確認不足」によるものが多いと言われています。

「薬のことに限らず、医療の現場では『気付き』と『声かけ』が重要です。『今までと同じだろ』とか『言わなくても分かっているだろ』が事故につながります。『これをやりました』ときちんと伝達すること、またわからないことがあつたら曖昧にせずに尋ねるなど、基本的なところを大切にしています」

何か事故が起こった後に、「あの時こう伝えればよかつた」と反省することは誰にでもあると思います。患者さんの命を預かっている現場において『わかっているだろう、やつてくれるだろう』ではダメで、厳重な確認と連携が必要だと感じています」

近年、医療安全活動の重要性が叫ばれています。医療安全に目を向けることのできる薬剤師が、むっと増えてほしいと願っています。

「他の病院でも安全管理を重視はじめ、専従薬剤師を置く方向にありますので、医療安全に目を向けられる薬剤師を育成していきたいと考えています」

MY HOBBY



フィギュアスケート観戦が大好きです。10年以上競技会とショーに通い、シーズンオフはアイスショーに行くのが息抜きになっています。

帝京大学医学部附属病院からのお知らせ

病院中央検査部が国際認定を取得しました

帝京大学医学部附属病院・中央検査部は、2016年2月にISO 15189規格の認定を取得いたしました。この規格は、スイスのジュネーブにある国際標準化機構によって設定されたもので、本検査室から報告された結果が、国際的に認められた正確さであることを保証しています。

本検査室では、血液・尿などについて一日に約2万回の検査が行われています。これらの結果全てを、迅速に・信頼性高く報告することは、実は容易ではありません。ある検査結果について、「これを誤らせる要素は無数にあります。

きちんと管理しないと測定誤差が大きくなり、「報告された結果は正常だったのに実は病気だった」、「検査結果で病気と言われたが実は正常だった」などということが起こってしまうことがあります。

普通、検査結果の誤りは、その検査自体を再検査すること以外では検証できません。誤差のある結果が報告されたとしても、それに対して気づくことが難しい部分があり、これは検査室が抱える危険な一面といえます。

どの検査結果についても、必要な結果が迅速に報告できるよう、部門としてシステムを作り、そのシステムが常に遵守されていることを担保する、これがISO認定のメリットです。華やかなトピックではありませんが、皆様にはより信頼できる中央検査部として、お役に立てるごとに信じております。



ロビー・コンサート開催のお知らせ

当院では年4回の予定で、1階のコミュニティストリートにてロビーコンサートを開催しております。病と闘っている患者さんを励ましたいと、学生さんや職員、時にはプロの方がボランティアで四季折々の演奏や歌声を披露してくれます。

不定期での開催となるため、詳細につきましては当院のホームページまたは院内掲示で発表いたします。素敵な演奏をお楽しみください。



ピアノトリオ演奏会(2016.2.22)

ボランティア募集のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では、ボランティア活動をしていただける方、または団体を随時募集しております。活動内容や活動時間はご相談下さい。

- ◎資格や経験は問わず、心身ともに健康な方
- ◎人を思いやる温かい心をお持ちの方
- ◎病院で知り得た個人的な情報を他人に漏らさないことを守れる方

【活動内容】

- ◎外来手続き、検査受付案内
- ◎自動支払機案内
- ◎患者交流スペース『陽だまり』での活動
- ◎患者向け冊子の整理
- ◎各種催し（イベント）
- ◎車いす介助

【活動日・活動時間】

- ◎平日 9時から16時
- ◎土曜日 9時から12時

週1回2時間以上、若しくは、月に2～3回程度継続して活動できる方を希望します。無理のない範囲でご相談の上お願いしております。

【お申込み・問い合わせ】

病院指定の「ボランティア申込書」がございます。左記にご連絡いただきお取り寄せいただきますようお願いいたします。「ボランティア申込書」に必要事項を記載し、病院1階15番・患者相談室にご持参または、ご郵送下さい。後日、コーディネータよりご連絡差し上げ面接を行います。活動が決まりましたら、健康診断書の提出が必要となります。

帝京大学医学部附属病院 患者相談室（病院1階15番窓口）
電話：03（3964）1211（代表）





帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀2-11-1

TEL.03-3964-1211(代表)

<http://www.teikyo-hospital.jp/>

院内報についてのお問い合わせ先――

帝京大学医学部附属病院 広報委員会

E-mail:kohoiin@med.teikyo-u.ac.jp